

小学生向け食農体験講座：  
稲作と芋掘りを中心として

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤井, 道彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/7164">http://hdl.handle.net/10297/7164</a>

# 小学生向け食農体験講座

## —稲作と芋掘りを中心として—

技術教育講座 藤井道彦

### はじめに

近年、食の安全・安心が注目され、食に対する関心が高まっており、学校教育の中においても食育の推進が重要視されている。しかしながら、現在、学校教育において実践されている食育の多くは、「食」についての内容に重点を置いて扱ったものが多く、食をえられるために必要な「農」についての体験をふまえた、食農体験としての観点が欠けていることが多いように思われる。

しかし、作物の栽培に必要な労力や時間、また場所を考えると、教育現場だけで多様な食農体験を行うことは困難なことが多いと思われる。その改善策のひとつとして、大学との連携があり、大学が関わることにより、教育現場のみでは実践することが容易ではない食農体験や、子どもたちに興味をもたせることができる、より深い内容についても扱うことができるものと期待される。

また、教育現場と大学とが連携することの中で、実践の補助として、目的をもって子どもたちと関わることにより、教育学部において将来教員を目指している大学生にとっても、教員採用試験に向けても、また、将来教員として採用された後においても、大変役に立つ体験をすることのできる機会であると考えられる。

### 1. 食農体験講座の実践

大学近くにある静岡市立大谷小学校3年生62名を対象に、総合的な学習の時間を利用していただき、食農体験講座を行った。食農体験講座は、子どもたちに大学まで来てもらって静岡大学教育学部自然観察実習地で行い、約1ヶ月に1~2回の割合で、9月から1月にかけて計8回の実践を行った。

- ・実施日時：第1回 9月18日(木) 野菜の苗の移植
- 第2回 9月24日(水) 野菜苗の畑への定植
- 第3回 10月22日(水) 稲刈り
- 第4回 10月28日(火) 野菜の収穫
- 第5回 11月25日(火) サツマイモの芋掘り、野菜の収穫
- 第6回 12月8日(月) 稲刈り後の作業とわら縄作り、  
サツマイモの試食
- 第7回 1月13日(火) 野菜の収穫、わら縄作り2回目
- 第8回 1月26日(月) 餅つき

- ・参加人数：小学3年生 62名
- ・活動場所：静岡大学教育学部自然観察実習地

食農体験講座全体としては、稲作体験・芋掘り・試食以外に、野菜の栽培・試食についても行ったが、ここでは稲作体験と芋掘りを中心に紹介する。

稲作では、食農体験講座を開催する時季的な制約から稲刈りからの体験となったが、子どもたち自身で鎌を用いた稲刈りを行い、刈ったイネは、はざ架けしてもらった。また、作物であるイネから、食用となる米を得るために必要な作業である、脱穀・籾すり・精米といった稲刈り後の作業も、手作業で体験してもらった。また、脱穀で生じる稲わらもごみではなく、昔から有効に利用してきたことを、わら縄作りの体験を通して学習してもらった。わら縄作りは一度目の体験では、時間の関係もあり、うまくできなかった子もみら

れたため、別の日に時間をかけて再度体験してもらったところ、ほとんどの子どもが、わら縄を作ることができた。もち米を用いたため、最後に、精米した米を用いて餅つきを行い、自分たちでついた餅の試食をしてもらった。

サツマイモの芋掘りも、食農体験講座を開催する時季的な制約から、芋掘りからの体験となったが、紫芋も含め4種類のサツマイモを植えていたため、茎や葉、掘った芋の色や形などを比べてもらった。収穫した芋は、4種類を並べて食べ比べてもらった。

それぞれの食農体験においては、希望する大学生に子どもの体験補助をしてもらった。

#### 食農体験講座の様子



## 2. まとめ

食農体験講座を通して、子どもたちが大変意欲的に興味をもって体験に取り組み、また、体験を通してさまざまな発見をしている様子がみられ、体験を通じた食育の重要性を再確認することができた。子どもたちの感想にも、楽しかった、うれしかった、おもしろかったとの感想が多くみられた。また、食農体験を通して感じたこと、気付いたことは、その体験から時間がたった最終回後の全体の感想にも書かれており、体験を通して身に付けたことは、時間が経過しても、子どもの記憶に深く残ってくれているようであった。

食農体験講座の補助をしてくれた学生も、子どもたちの姿や反応に多くの発見をしていたようで、将来教員になるにあたり、貴重な体験となったようである。

今後も、食農体験の教材化について、さらに検討していく予定である。